

子どもたちの健やかな成長を願い保育園、児童館、給食、アトピーについてさらに議論がされました。
 ここでは、アトピーについての問題点・皆さんの提案をあげてみました。



アトピー性皮膚炎について

今や日本人の3人に一人は何らかのアレルギーを持っているといわれます。蒲郡市でも多くの子ども、お母さんが悩んでいます。
給食とおやつ

アレルギーを引き起こす食物として乳幼児に問題になるのが卵・牛乳・大豆です。そこで①蒲郡市内の保育園と②アレルギー給食を実施している園の献立表を比べて見ました。

給食では、①は主食がパンが中心です。主菜は油を使ったものが多く、卵、牛乳、大豆も頻繁に使われます。②では主食はごはんが中心です。普通給食で「かきたま汁」の時は、卵の代わりに白身魚を使った「つみれ汁」が用意されています。

おやつでは、①は、卵・牛乳が多く使われています。また、ほとんどが市販の菓子で健康な子どもに対しても、望ましいものではありません。

②では、最近増えてきた穀物アレルギーの子どもにも対応して、ヒエ、キビなどを使った手作りのおやつを出しています。

また、東大阪市のように、市全体で積極的にアレルギーの献立の提供に取り組んでいるところもあります。全国各地の保育園でアレルギー給食の実践が始まってから、およそ10年。早々に蒲郡市でも実践されることを期待するものです。

服装

汗をかいた後に体をふいたり、薬を塗ったり、清潔な服に着替えるという、家庭ではごく当たり前にできるケアも、保育園、学校ではなかなかできにくい状況です。

いじめ

アトピーの子どもはなにかといじめの対象になります。その原因は、肌の状態がみんなと違う、みんなと一緒に食べられない、同じ様に活動できない(プ

ールに入れない、汗がでるとかゆくなってしまふ) などです。

お母さんのストレス

アトピーを持つ子どもも大変ですが、主に子どもとかかわっているお母さんもストレスを日々感じています。子どもがかゆがって夜寝てくれない。アトピーの子どもを生んだ自分に責任があると感じている。毎日の掃除、洗濯、食事などなど。イライラが積み重なって、子どもをしかると、子どもはますますかゆがって、悪循環が繰り返されていきます。

お母さんが安らかな気持ちで子どもと接することのできるために、ストレス発散の場、同じ気持ちを理解しあえる仲間、アドバイスをしてくれる専門家がよくだと考えます。

おわりに

アトピー性皮膚炎は、その子と親と医師が治療に向けて協力することは、もちろん大切です。しかし、子どもを取り巻く環境も密接にその子どもの成長にかかわっています。

市保健センター、保健所ではアトピー対策に力をいれていく方針だと聞いています。

また、子どもたちが一日のうちのほとんどを過ごす保育園、学校でもアレルギーに対する理解が深まり、アレルギー給食の実施やいじめがなくなること期待するものです。

アトピー性皮膚炎であることを含めて、まるまる一個の人格として子どもを受け入れてくれるような社会が実現されることを願います。

女性ワーキングチーム (午前)を振り返って

この6カ月間ワーキングチームに参加してきましたが、今回の提言は中間報告であり、出発点と考えています。日頃の生活から出てくることを言い続けることが「人によさしい街づくり」につながるのだと思います。

今まで行政任せで、だれかが言わなければいけないことがあっても、その方法を知らなかったり、また要望していても吸取紙(関係部署)の役割が充分機能せず、本当に私たちの思いが通じているのかと疑ってしまうこともありました。油の張った吸取紙ですぐはねかえされたり、吸うだけであふれ出てしまったり、とても憤りを感じたこともありました。そういった意味でも、この会議がもたれたことは本来あるべき市政に一步近づいたといえるのではないのでしょうか。

今後は、この気持ちを持ち続け、これで終わることなく活動し続けたいと誰もが感じ、市民主導型の街づくりをしたいと考えています。